

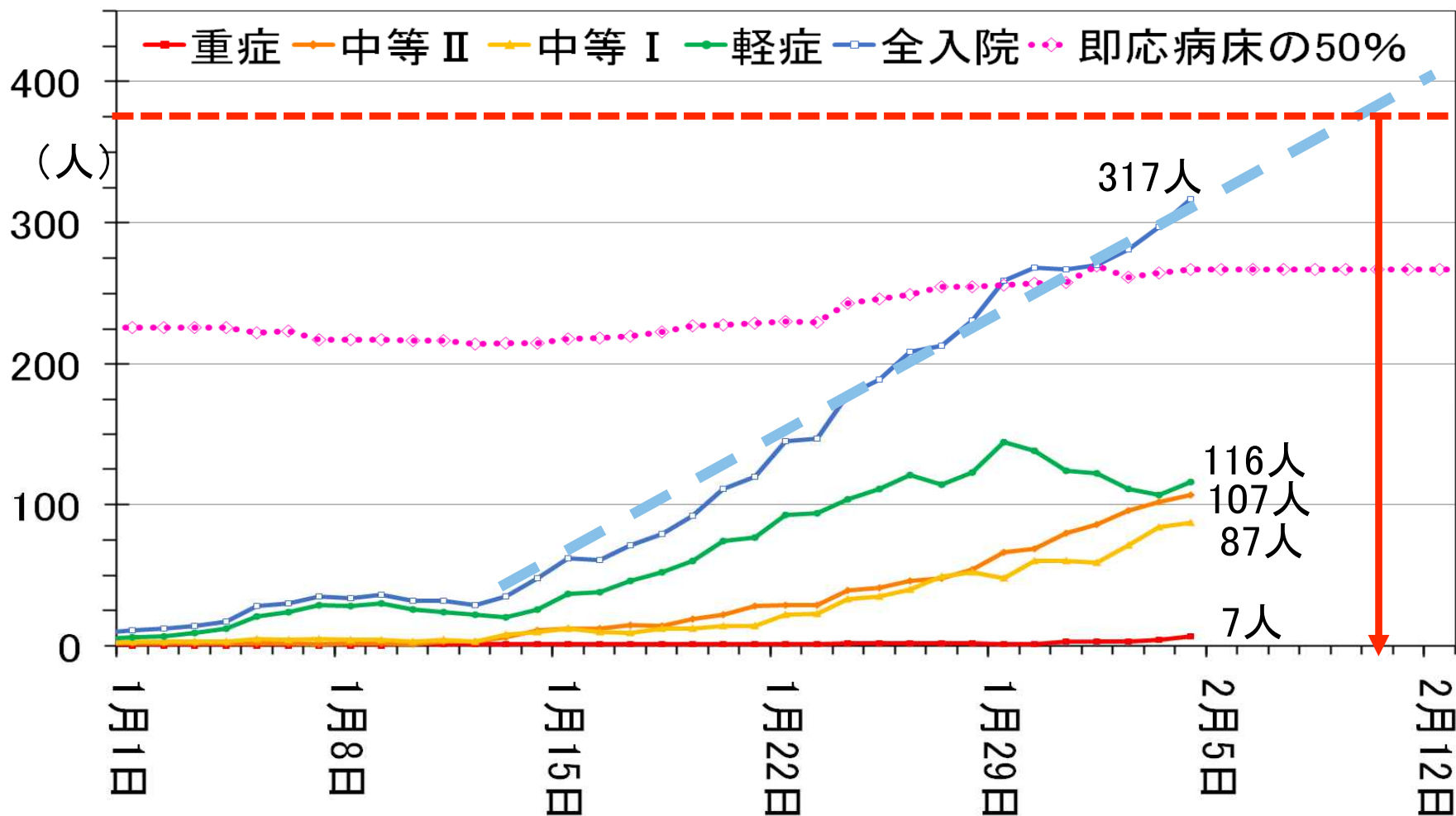
# コロナ医療及び通常医療のひっ迫状況

# コロナ患者受入病床の状況と今後の予測

(令和4年2月4日現在)

区分	入院患者数	即応病床 (使用率)	最大確保病床 (使用率)
全入院	317人	534床 (59.4%)	751床 (42.2%)
うち重症	7人	42床 (16.7%)	64床 (10.9%)

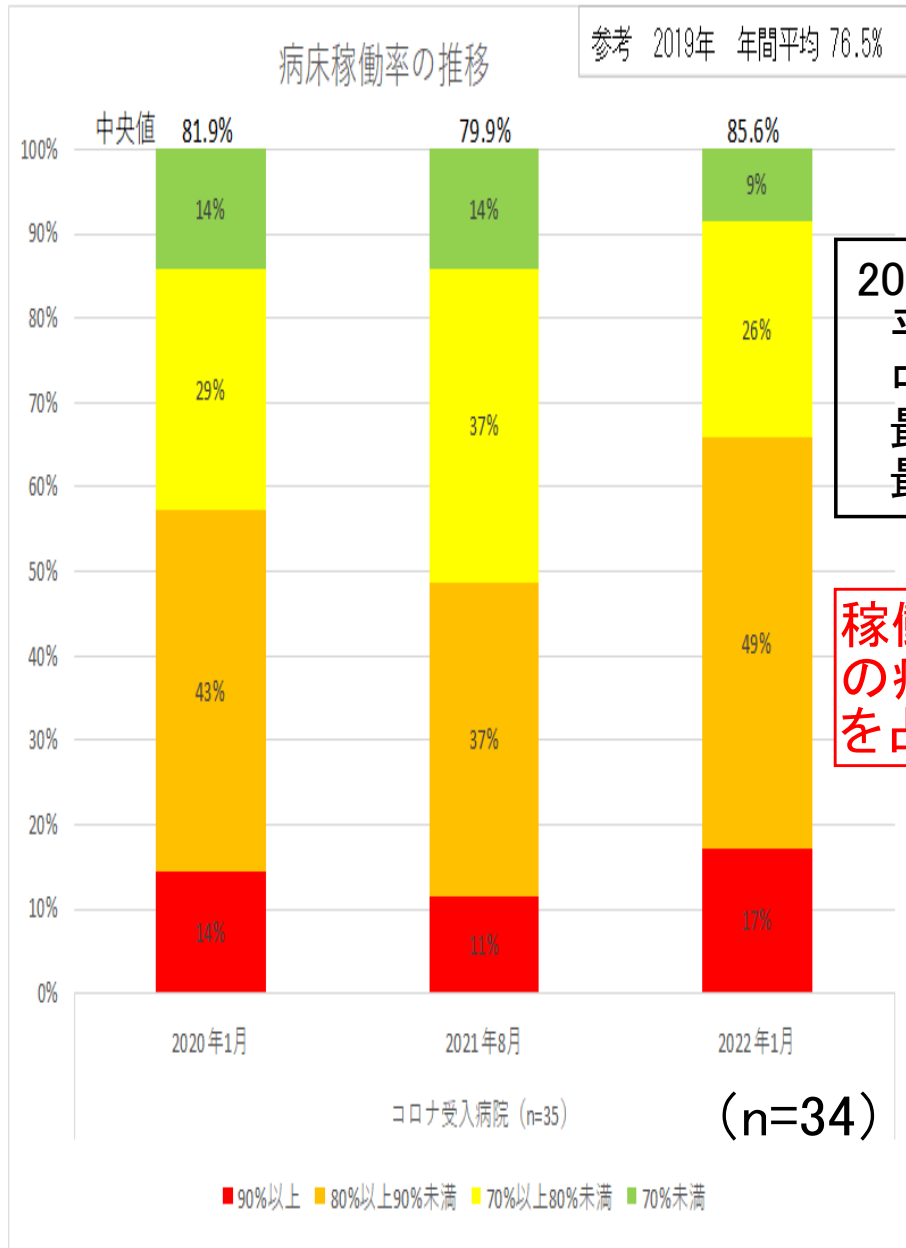
※ コロナ患者受入病院以外で発生したクラスターの患者の入院は除く



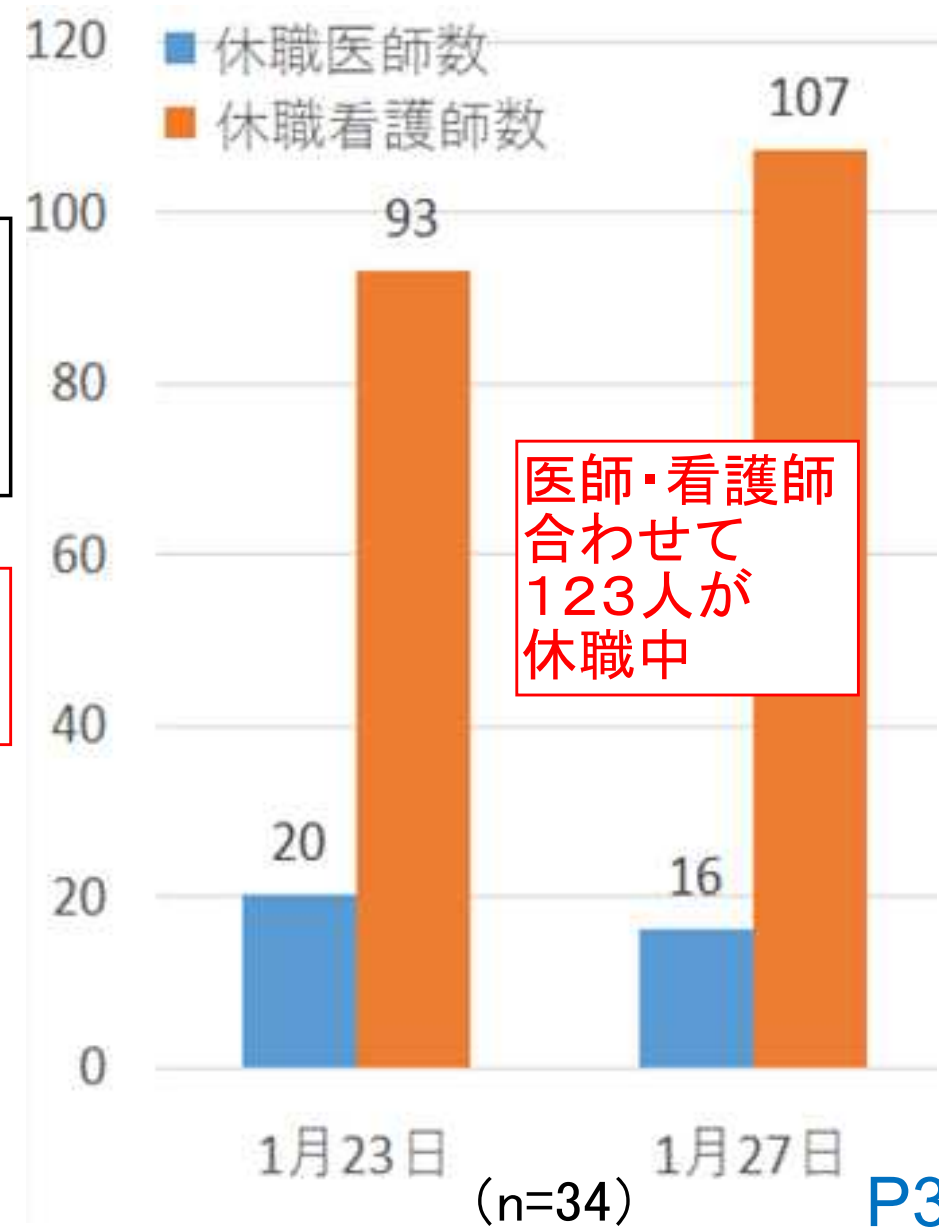
このままのコロナ入院患者の増加傾向とすると、  
2月10日頃には現在の即応病床の70%の374床を超えるおそれがある。

# コロナ受入医療機関の一般病床と休職状況（1/27時点）

## 【一般病床の稼働率】



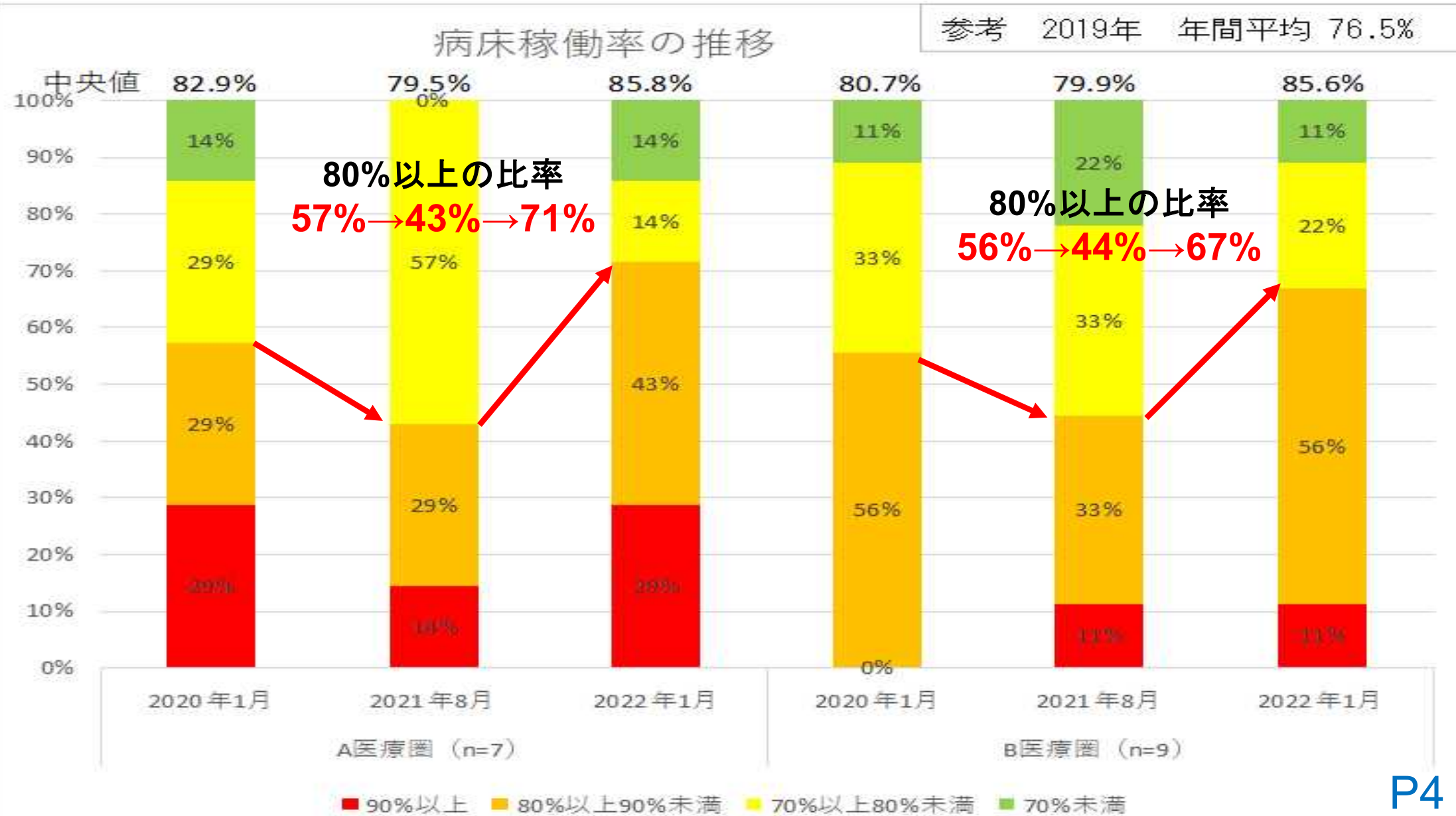
## 【医師・看護師の休職者数】



# 2次・3次救急医療機関の病床稼働率

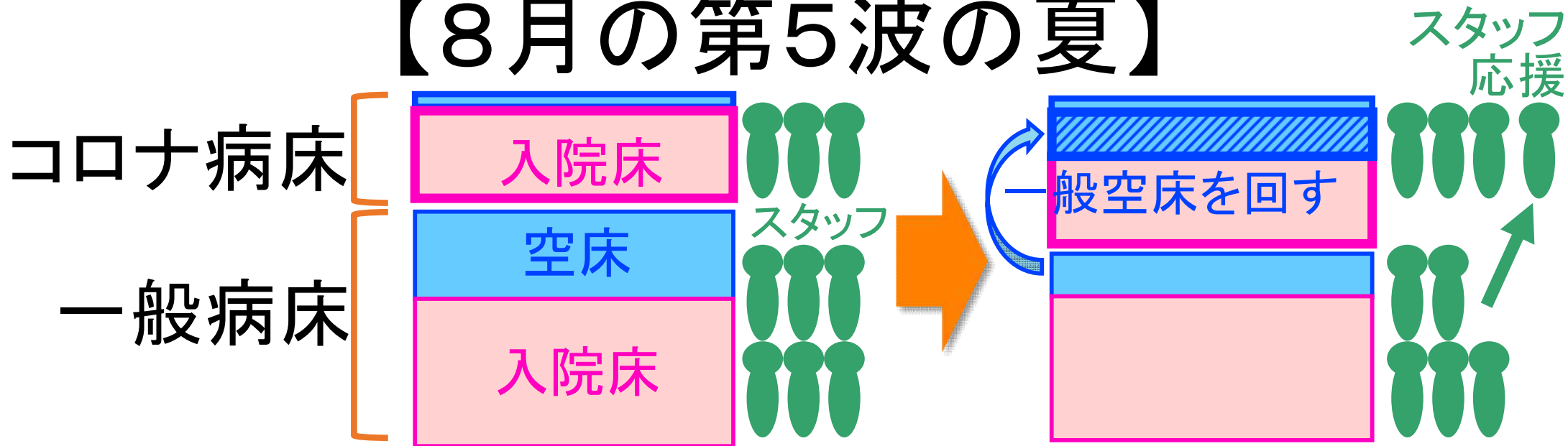
(A医療圏とB医療圏の2020年1月・2021年8月・2022年1月の比較)

県全体で病床稼働率は17ポイント上昇(2021年8月→2022年1月)

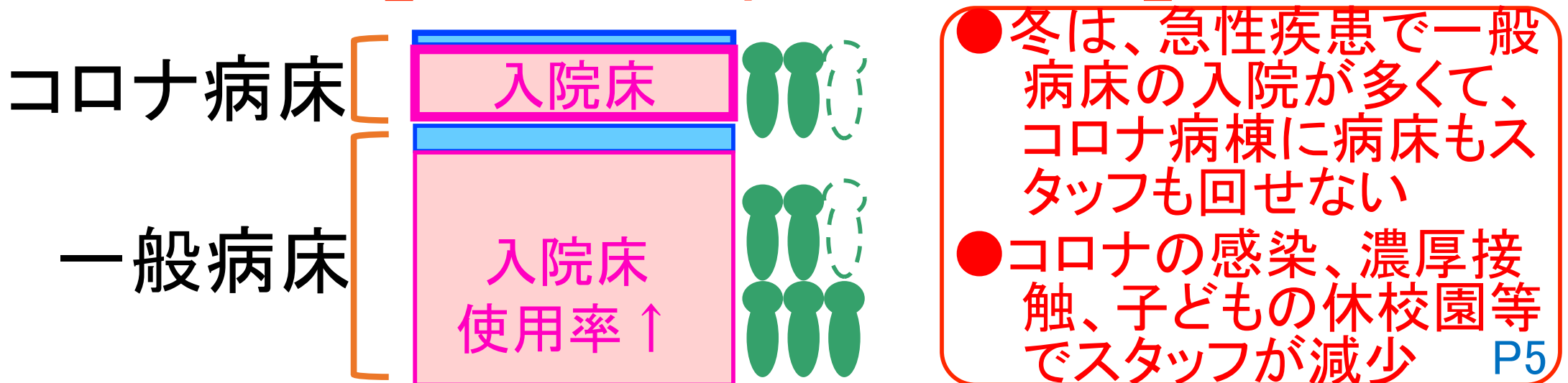


# 第6波の医療ひっ迫の理由

## 【8月の第5波の夏】

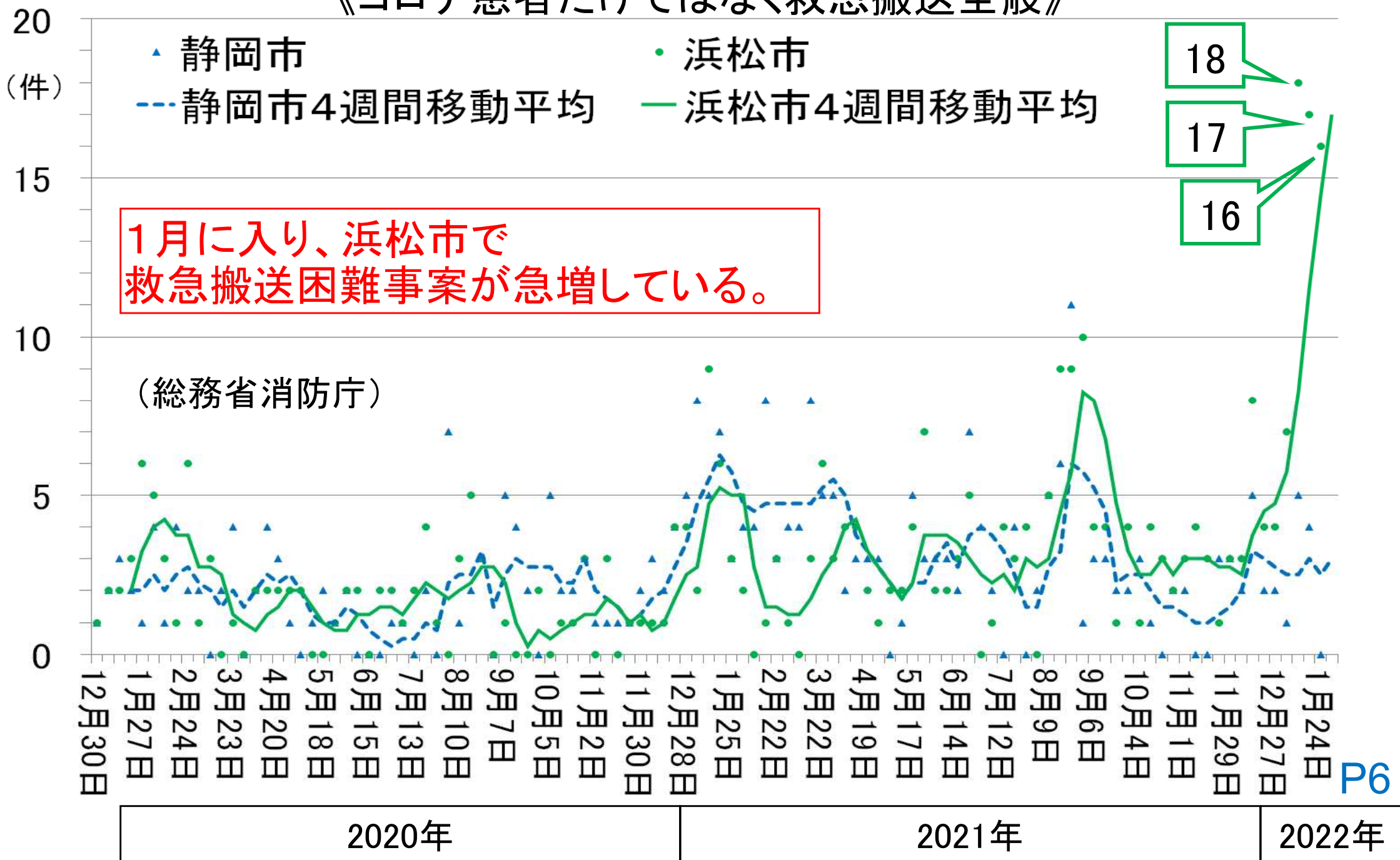


## 【現在の第6波の冬】



# 静岡市と浜松市の救急搬送困難事案数（1/30時点）

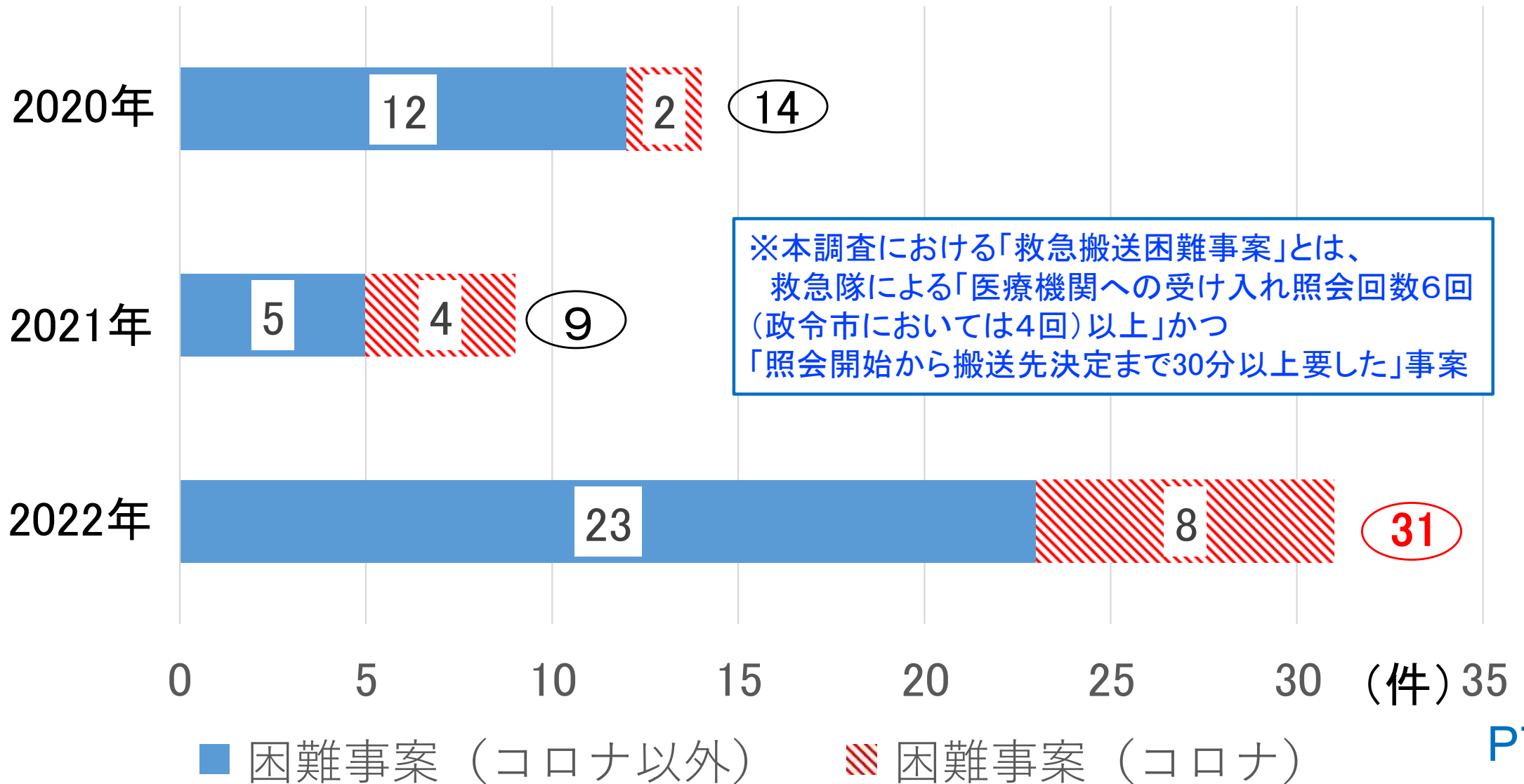
《コロナ患者だけではなく救急搬送全般》



# 1月第5週目の救急搬送困難事案(県内全消防本部)

(2020年、21年、22年の1月最終週)

2022年1月最終週の救急搬送困難事例は、前年、前々年と比較して大幅





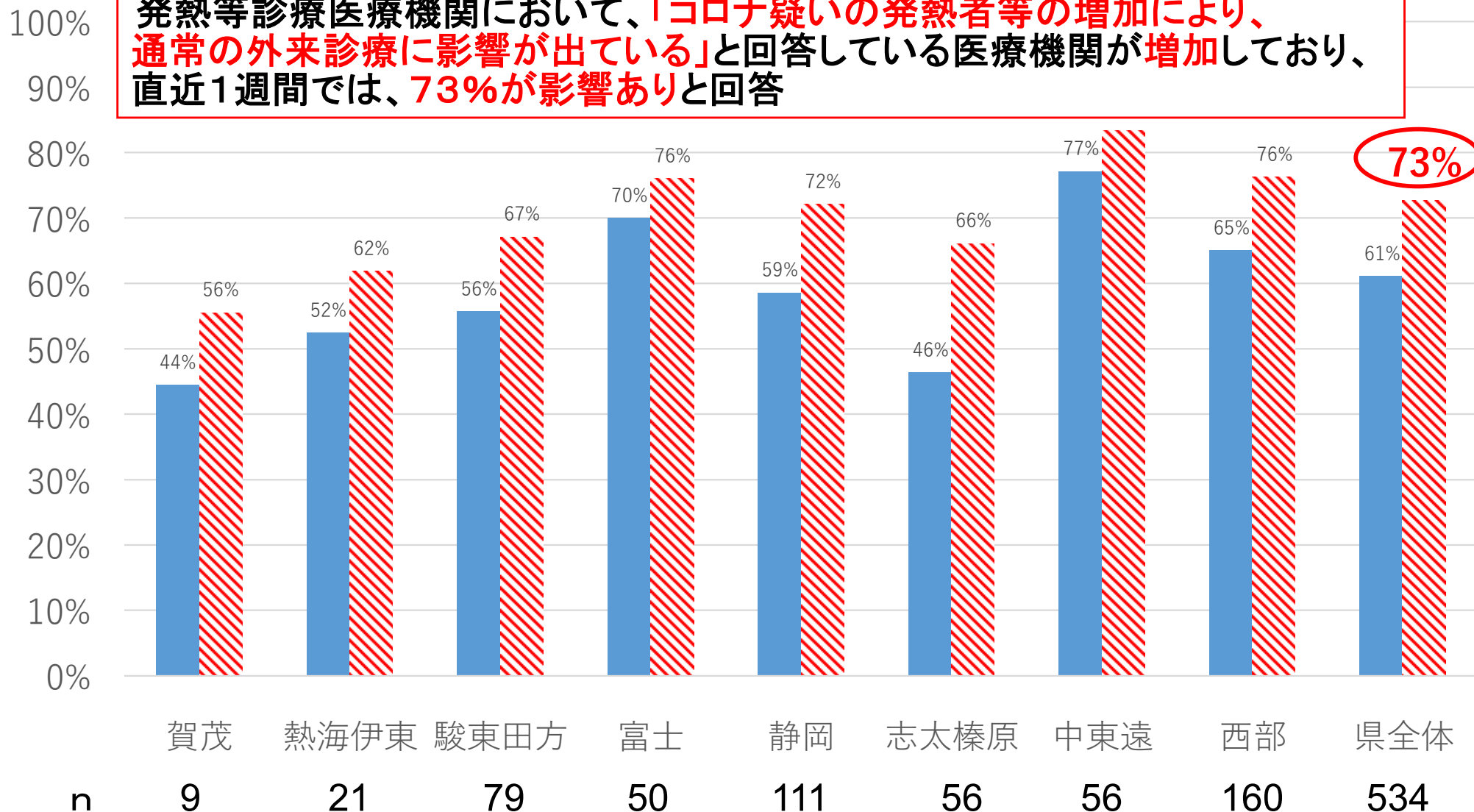
# 発熱者等の受診による通常の外来診療への影響

## 発熱等診療医療機関(診療所)

■ 先週(1/15~1/21) 影響あり

▨ 今週(1/22~1/28) 影響あり

発熱等診療医療機関において、「コロナ疑いの発熱者等の増加により、通常の外来診療に影響が出ている」と回答している医療機関が増加しており、直近1週間では、73%が影響ありと回答



※ 総数:878 回答数:534(回答率61%)



# 医療提供体制の現状認識

コロナ患者の受入病床の使用率は、今後も確実に上昇



一方で、冬期の通常医療の需要の高まりから、コロナ病床以外の病床が  
これまで以上にひっ迫

地域の医療機関において、発熱患者等の対応で通常診療に影響大



コロナ病床の拡充は、救急医療や通常医療をけずることになり  
「医療崩壊」の危険が高まる



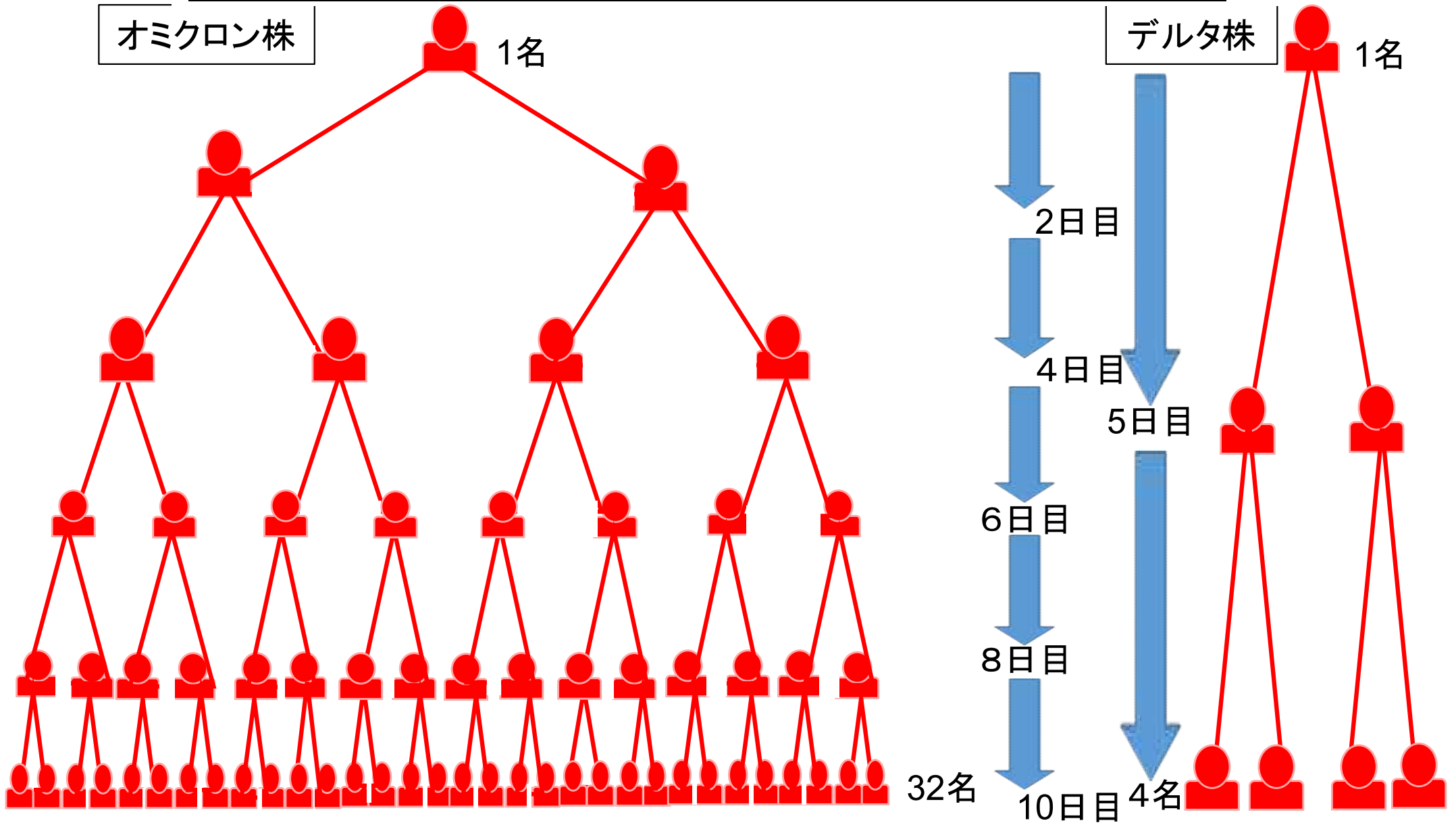
本県の医療提供体制は、実質的にレベル3

<対応>

冬季の現状に合う確保病床数の把握

# 社会機能への影響

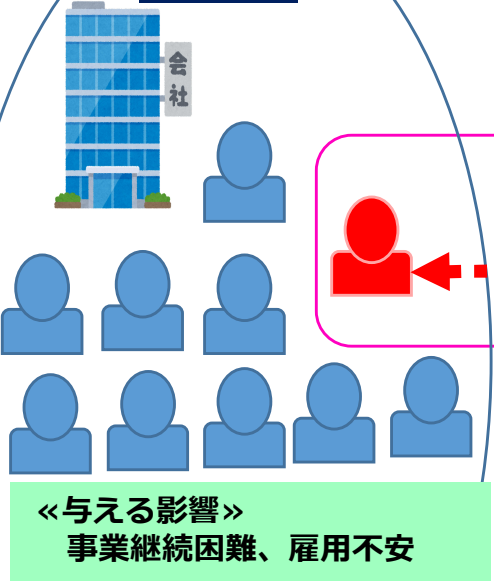
# デルタ株とオミクロン株の感染スピードの比較



オミクロン株の感染スピードはデルタ株の2.5倍、  
10日後の感染者はデルタ株の8倍となる。

# 感染力の強いオミクロン株が社会に与える影響

## 職場

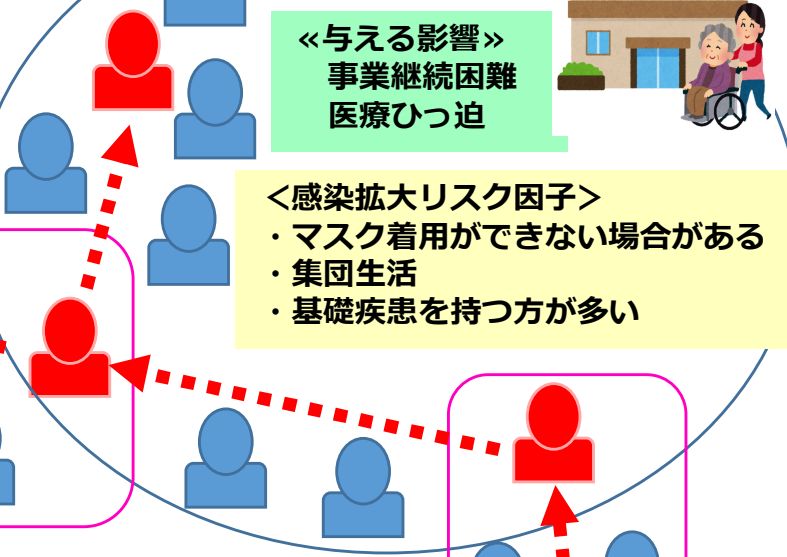


マスク会食の不徹底



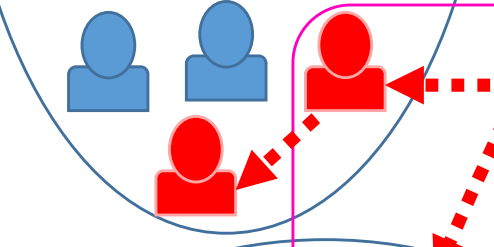
マスクなし会話

## 施設

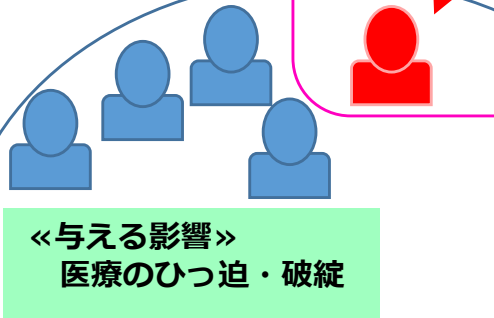


「与える影響」  
事業継続困難  
医療ひっ迫

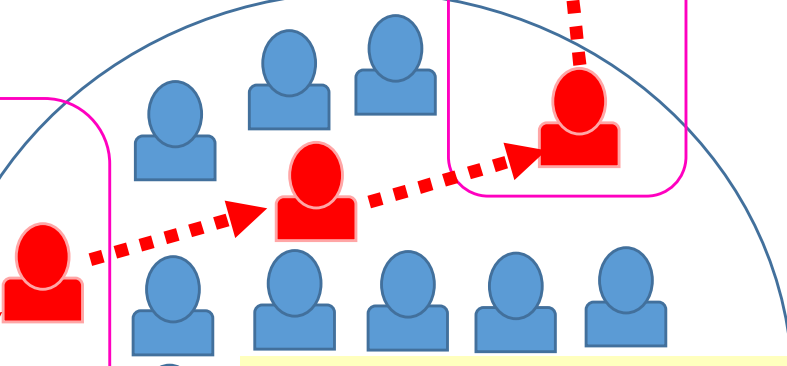
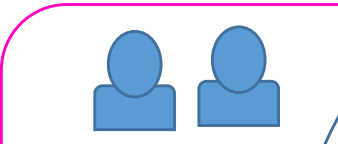
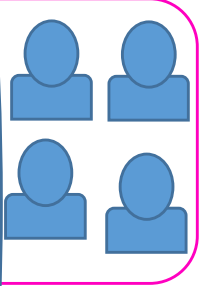
「感染拡大リスク因子」  
・マスク着用ができない場合がある  
・集団生活  
・基礎疾患を持つ方が多い



「与える影響」  
事業継続困難、雇用不安



「与える影響」  
医療のひっ迫・破綻



「感染拡大リスク因子」  
・マスク着用ができない場合がある  
・ワクチン未接種  
・集団生活

「与える影響」  
学習機会の減少  
休校・学級閉鎖に伴う保護者就業困難

## 医療機関

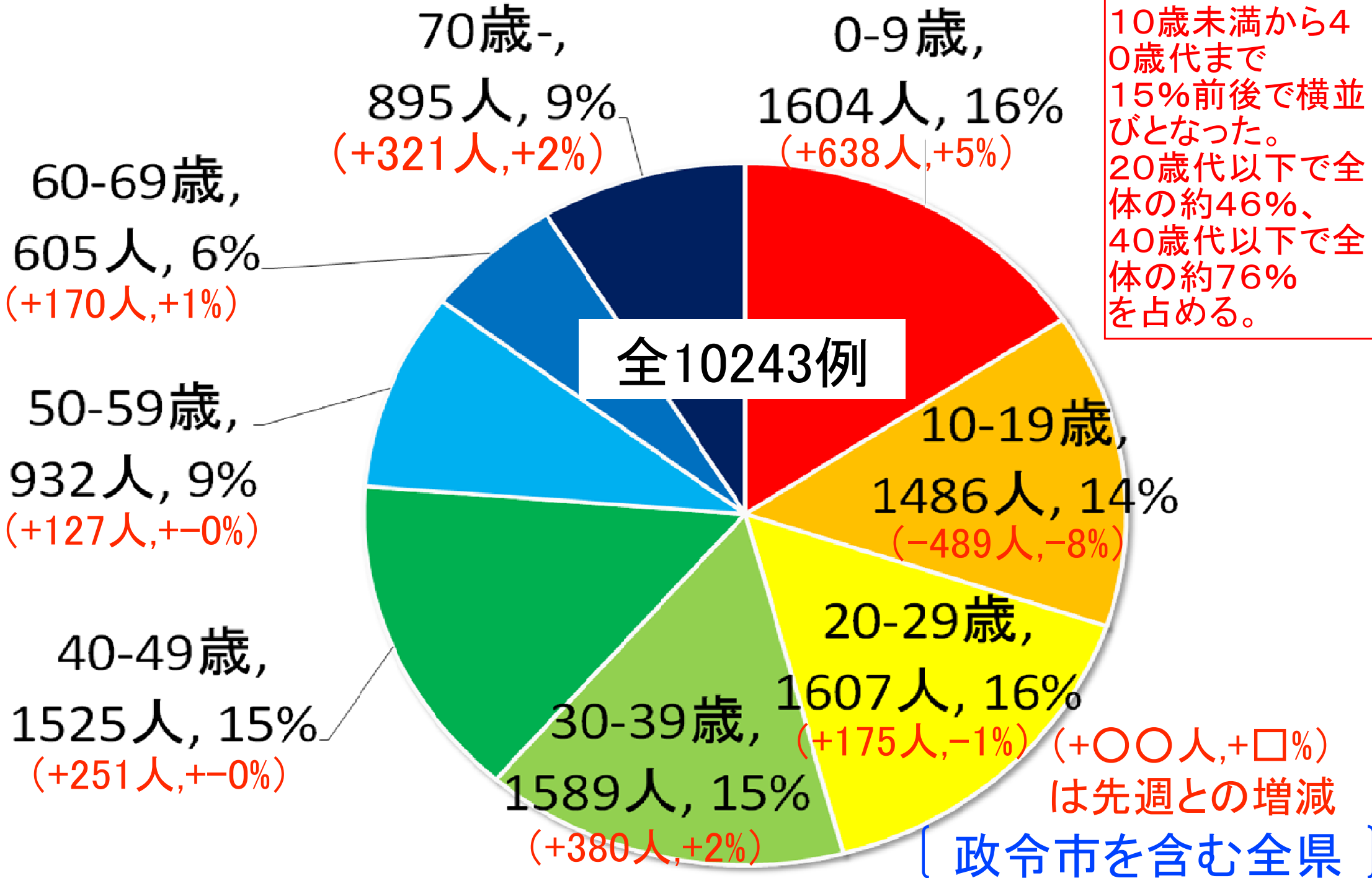


## 園や学校



● 感染者    ● 濃厚接触者    家族

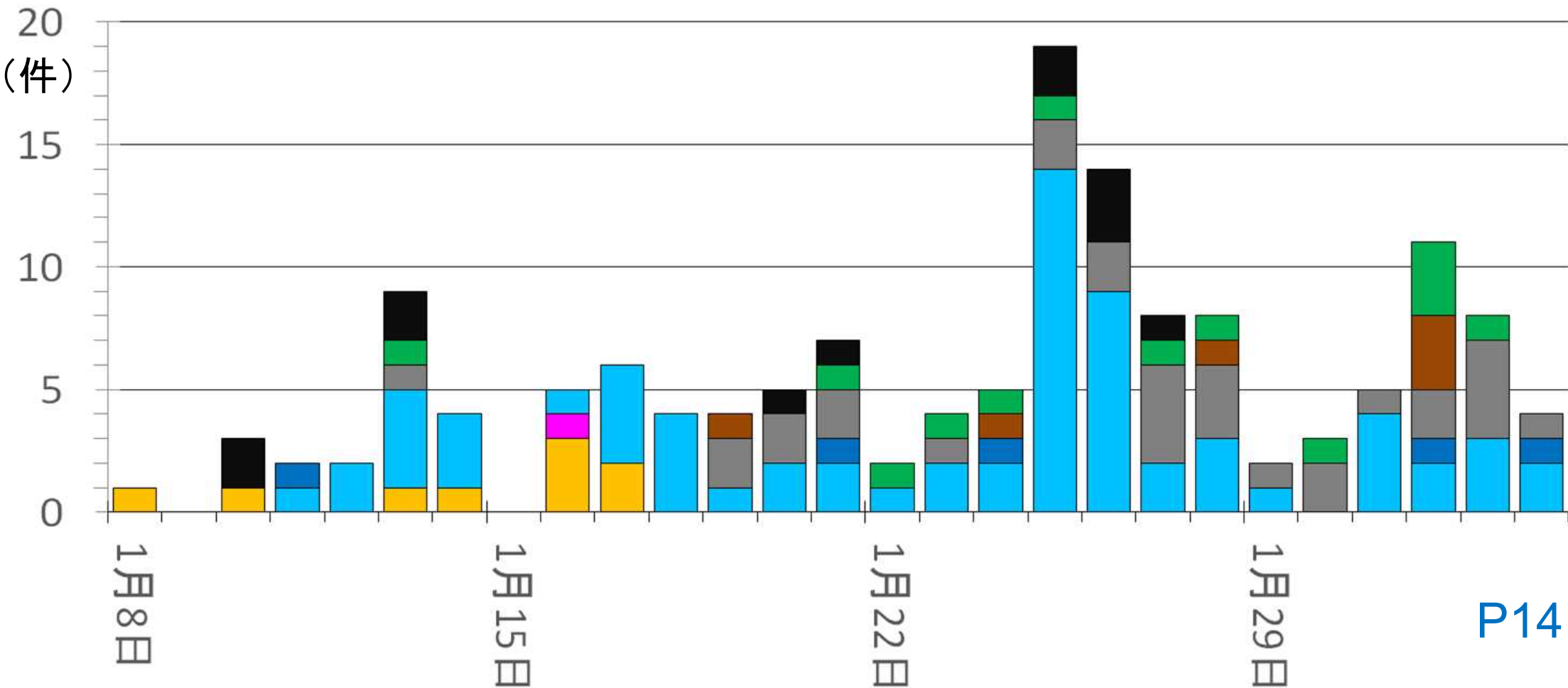
# 静岡県直近の年齢別感染者数・割合(1/28~2/3)



# 静岡県 感染者集団(クラスター)の種類と件数(1/1~2/3)

全145件中、学校・保育施設が69件(48%)で最多。  
次いで高齢者施設が30件(21%)、病院・クリニックが13件(9%)

- 住宅等での知人との会食(9件)
- 学校・保育施設(69件)
- 高齢者施設(30件)
- 病院・クリニック(13件)
- 接待を伴う飲食店(1件)
- 事業所・工場(5件)
- 高齢者以外の福祉施設(6件)
- その他(12件)



## (参考)学校、高齢者施設等の休校・休止状況等(1/1～31)

小・中・高校のうち、26%が、休校、学年閉鎖、学級閉鎖を実施  
保育所・認定こども園の7%が、全面又は一部休園を実施

区分	施設数	休校・休止等件数	割合
学校	960	250	26.0%
保育所・認定こども園等	832	58	7.0%
高齢者施設	4173	61	1.5%
障害者施設	1530	23	1.5%

家庭でこどもや高齢者の面倒を、見ざるを得なくなり、出勤できない方も増え、事業がふだんどおり行えない事業所も増加していると想定



# 県の今後の対応

# 県の今後の対応

## I 病床の効率的運用と入院の抑制

### ① 入退院の基準の厳格化

- ・ 軽症の入院患者は、中和抗体薬を投与後、症状悪化の可能性が低いと判断した場合は退院(宿泊療養か、自宅療養へ移行)

### ② 後方支援病院に対し、回復患者の速やかな受入を再度要請

### ③ 入院待機施設の設置 県内3ヶ所の宿泊療養施設に設置

### ④ コロナ患者受入病院以外の医療機関に対し、軽症患者の治療(内服治療薬投与含む)を要請

※ 併せて、関係団体を通じ、より多くの医療機関に発熱等診療医療機関になっていただくよう要請

### ⑤ 院内発生したコロナ患者が軽症の場合は、自院で加療するよう要請

## II 病床の確保

### ⑥ 可能な範囲での病床確保を要請

個々の病院の通常医療のひっ迫度、医療従事者の充足状況等の実情にあわせ、可能な範囲での病床の確保を要請

## III 感染抑制

### ⑦ 県民へ感染対策の徹底と早期のワクチン接種呼びかけ